

第7章 総合的な学習の時間

1 総合的な学習の時間の取扱い

(1) 総合的な学習の時間の目標

【学習指導要領より】

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

ア 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習のよさを理解するようにする。

【知識及び技能】

イ 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。

【思考力、判断力、表現力等】

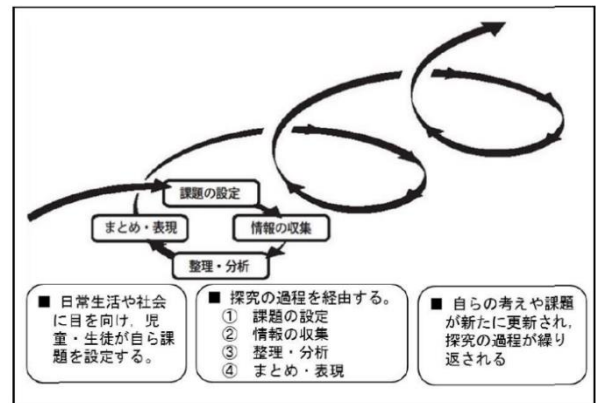
ウ 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

【学びに向かう力、人間性等】

(2) 探究的な学習とは

児童生徒は、①日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付け、②そこにある具体的な問題について情報を収集し、③その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み、④明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、そこからまた新たな課題を見付け、さらなる問題の解決を始めるといった学習活動を発展的に繰り返していく。このような物事の本質を探って見極めようとする一連の知的営みのことを探究的な学

習という。(図1 参照)



(図1) 学習指導要領解説「総合的な学習の時間編」より引用

(3) 総合的な学習の時間の特質に応じた学習の在り方

ア 探究的な見方・考え方を働かせる

(ア) 各教科等の特質に応じた見方・考え方を、探究的な学習の過程において、適宜必要に応じて総合的に活用する。

(イ) 特定の教科等の視点だけでは捉えきれない広範な事象を、多様な角度から俯瞰して捉える。また、課題の探究を通して自己の生き方を問い続けるという総合的な学習の時間に特有の物事を捉える視点や考え方である。

イ 横断的・総合的な学習を行う

(ア) 教科等の枠を超えて探究する価値のある課題について、各教科等で身に付けた資質・能力を活用・発揮しながら解決に向けて取り組んでいくことが必要となる。

ウ よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていく

2 総合的な学習の時間の配慮事項

(1) 指導計画作成に当たっての配慮事項

年間や単元(題材)など内容のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童生徒の主体

的・対話的で深い学びの実現を図るよう
にすること。その際、児童生徒や学
校、地域の実態等に応じて、児童生徒
が探究的な見方・考え方を働かせ、教
科等の枠を超えた横断的・総合的な学
習や児童生徒の興味・関心に基づく学
習を行うなど創意工夫を生かした教育
活動の充実を図ること。

(2) 総合的な学習の時間の評価

各学校が自ら設定した観点の趣旨を
明らかにした上で、児童の学習状況に
顕著な事項がある場合などに特徴を記
入する等、どのような資質・能力が身
についたかを文章で記述する。ペーパ
ーテストなどの評価の方法によって数
値的に評価することは、適当ではない。
①指導する教師間において、評価の観
点や評価基準を確認しておくこと、②
児童の成長を多面的に捉えるために、
多様な評価方法や評価者による評価を
適切に組み合わせること、③評価を学
習活動の終末だけでなく、事前や途中
に適切に位置付けて実施すること、な
どが大切となる。

具体的な評価の方法としては、例え
ば、ワークシート、ノート、作文、絵、
レポートなどの制作物、発表や話し合
いの様子などから評価したり、自己評
価や相互評価を活用したりするなど、
児童生徒のよい点や学習に対する意
欲・態度、進歩の状況などを総合的に
評価することが考えられる。

(3) 学習指導要領改訂の趣旨及び要点

探究的な学習のプロセスを明示し、
学習活動を発展的に繰り返していくこ
とを重視してきた。全国学力・学習状
況調査の分析において、総合的な学習
の時間で探究のプロセスを意識した学
習に取り組んでいる児童生徒ほど各教
科の正答率が高い傾向にあること、探

究的な学習活動に取り組んでいる児童
生徒の割合が増えていることなどが明
らかになっている。

その上で、課題と更なる期待として、
以下のような点が示されている。

ア 総合的な学習の時間と各教科等の
相互の関わりを意識しながら、学校
全体で育てたい資質・能力に対応し
たカリキュラム・マネジメントが行
われるようになること。

イ 探究のプロセスの中でも「整理・
分析」、「まとめ・表現」に対する取
組が十分ではないという課題がある
ため、探究のプロセスを通じた一人
一人の資質・能力の向上をより一層
意識すること。

また、学習内容、学習指導の改善や
充実を目指すために、①協働して課題
を解決すること、②ICTの活用、③
体験活動、地域の教材や学習環境を取
り入れることの重視、④プログラミング
など論理的思考力を身に付ける学習
活動を探究的な学習の過程に適切に位
置付けることなどが示された。

《参考・引用文献》

- ・小学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間」文部科学省平成29年7月
- ・中学校学習指導要領解説「総合的な学習の時間」文部科学省平成29年7月
- ・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（小学校編）」文部科学省令和3年3月
- ・「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開（中学校編）」文部科学省令和4年3月